

平成 23 年 3 月 17 日 (木) 23:26 報告より

<宮城県における状況等>

- ・ 物資の流通は一時に比べて流れができてきた。しかし、ガソリンがないためなかなか思うように物資の供給ができていないというのが現状。
- ・ J Aグループ集出荷施設等からの出荷については、停電で冷蔵庫が止まり、肉類、野菜などすべてがダメになってしまったため、供給できない状況になってしまった。
- ・ 実際に被災地を見てきたが、南三陸はまるで戦災のような惨状。
- ・ 現在、宮城県内で必要とされているものは、①精米、②水、③おにぎり、④ロングライフ牛乳、⑤パン、⑥粉ミルク、⑦紙おむつの7品目。

<仙台市内の状況等>

- ・ 仙台市内は、電気・水道・通信についてある程度回復しているが、ガスの供給はまだ止まっているため、市内のホテルの多くが宿泊の受け入れを行っていない。
- ・ 山形・仙台間のバスは、臨時便などによりほぼ待つことなく乗車できる。高速道路は地震により橋が崩落しそうな箇所を除いて通行可能であり、片道約1時間40分で移動できる。
- ・ 仙台市内の建物は、外観を見ても地震の影響があるようには見えない。しかし、J Aビルのように天井が破壊したりするなど、内部は崩壊しているような状況。
- ・ 食糧については、大変逼迫した状況。市内の大型スーパーに入店するのに、多くの人が1km近くの列を作って待っている状況で、バスの乗客の話によると、買い物は1人につき10品までと買い込みを抑制のための数量制限がかかっている模様。



J A 宮城中央会 (仙台市) 事務室の様子



J A 宮城中央会 (仙台市) 書庫の様子

<隣県・山形県における支援状況等>

- ・ J A山形中央会では、毎日宮城県庁に2名を派遣し、県内で必要な救援物資の情報収集を行い、その情報に基づいてJ Aグループの研修施設から支援物資を運搬するという体制をとっている。宮城県庁では物資の受け入れ先は確保できている。
- ・ また、現在は山形県でおにぎりを作って宮城県へ運搬しているが、ライフラインが整備できれば、宮城県内で機械を使っておにぎりを作れるような基地も探している。
- ・ 現在、山形県では被災者の避難民の受け入れを行っている。特に、最近では福島県原発の影響を受け、福島から入ってくる方々が多い。そうした人たちのためにJ Aグループの研修施設でも受け入れを行うことを決定した。については、被災地だけでなく、避難民受け入れのための食糧・物資等の無償援助、物資配送用の輸送費の負担などの支援をいただきたい。